

山岳友の会会報

2023年8月 第48号



秋の槍穂・涸沢俯瞰 屏風の耳

も く じ

第63回現地研修会（筑波山）	報告1 澤田 義幸	2
	報告2 横田 耕太郎	4
第28回上高地談話会（涸沢）	報告 小林 久雄	6
明神養魚池メンテナンス（23.6.10）	報告 小林 久雄	6

第 63 回現地研修会

『酒井さんと歩く筑波山、そして袋田の滝』報告 その1

澤田 義幸

○参加メンバー（順不同）

酒井、熊谷、勅使河原、村重、細萱、渡邊、小林、横田、澤田、竹原、立花、鈴木（計 12 名）

※酒井さんは袋田の滝で合流

6 月 7 日（水）

7 時 30 分 松本駅アルプス口集合 朝日観光バス乗車 松本 IC から一路茨城へ出発、久々のサロンバス 早々にビールでのどを潤す。途中トイレ休憩を取りながら目的地へ

12 時 水戸市食事処『薫風 梅み月』着、多彩な料理、ご飯、うどん等品数多くビール、日本酒とともに美味しくいただく、満腹。



▲食事処『薫風 梅み月』の昼食



▲袋田の滝 第1観瀑台



▲袋田の滝 第2観瀑台で

13 時発、14 時 15 分常陸太田市竜神大吊橋着。竜神大吊橋は観光用の歩行者専用有料（320 円）橋で、全長 375m、橋の中央から高さ 100m のバンジージャンプが料金 19,000 円で体験できるとのこと。ちょうど私たちが通行中にバンジージャンプする人がいましたが見ることはできませんでした。橋を渡り終えると『木霊の鐘』という鐘があり 100 円で鳴しました。

15 時 23 分袋田の滝着。茨城県在住の酒井さんと合流、早速滝見学へ、観瀑トンネル 276m を通り第 1 観瀑台へ出る。滝の大きさに驚く、さらにエレベーターに乗り第 2 観瀑台で滝の全容を展望する。

※袋田の滝は日本三名瀑のひとつで高さ 120m、幅 75m の四段の滝。

16 時 18 分袋田の滝発、16 時 25 分 宿泊場所袋田温泉『思い出浪漫館』着、温泉に入り宴会場へ。酒井さんのお話を聞き懇親会、ご馳走や酒等をいただき 1 次会終了、部屋に戻り 2 次会としばらく飲み続けおひらき、就寝。

6 月 8 日（木）

8 時 22 分 宿玄関前にて記念撮影後、一路筑波山へ。

10 時 55 分 筑波山の麓筑波神社着、バスを降り筑波山神社を参拝し、「筑波山神社」「男体山」「女体山」の 3 種御朱印をいただき、御幸ヶ原コースを登る。今回の参加者 12 名中、登山で山頂を目指すのは横田さんと私の二人だけでほかの方々はケーブルカー、ロープウェイの利用で山頂を往復されました。

私はせっかく百名山の一峰に来たので麓から往復したいと思い歩きました。

筑波山神社 11 時発、つつじヶ丘 14 時着の行動時間 3 時間という制約の中、登山道と並行するケーブルカーの音を聞きながら必死に歩かせていただきました。

12 時 10 分御幸ヶ原着、先行する横田さんが男体山から降りて来ました。ケーブルカー組は男体山を上り終え昼食をしているとのこと、急いでで男体山山頂へ行き女体山を目指す、みんなが飲食している「仲の茶屋」で呼び止められ、ビールともつ煮をいただく。渡邊さんが



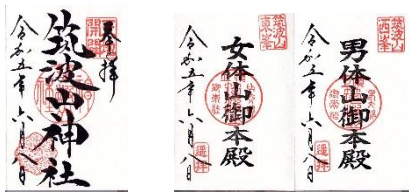
▲『思い出浪漫館』出発前



▲バスの車窓から見る筑波山



▲筑波山神社



▲御朱印
(筑波山神社・女体山・男体山)



▲御幸ヶ原コース
男女川 (みなのがわ)



▲御幸ヶ原
仲の茶屋から男体山山頂を望む



▲女体山山頂からの遠望左奥に霞ヶ浦方面



▲御幸ヶ原 左男体山 右女体山
一足早く男体山山頂から降りてきた横田さん

虫よけに効くという「オニヤンマクン」を購入している。13時女体山山頂着、霞ヶ浦方面を眺望する。

筑波山は関東地方に人が住むようになったころから信仰の対象として仰がれ、その山容が二峰相並ぶため、自然に男女二柱の祖神（伊弉諾の尊、伊弉冉の尊）が祭られたそうです。筑波山神社では筑波男ノ神伊弉諾の尊男体山 871m、筑波女ノ神伊弉冉の尊女体山 877mをご祭神としてお祀りしています。縁結び、夫婦和合、家内安全、子授かり、子育てなどのご神徳があり多くの人々に信仰されています。

御嶽山王滝口登山道にも7合目大江権現に伊弉冉の尊、8合目金剛童子に伊弉諾の尊をお祀りしており、御嶽山でもこの二神をお祀りし、ご神徳を得ようとしたのでしょうか。

女体山山頂からつつじヶ丘目指し下山を始める。奇岩、巨岩がいたるところに現れる。

筑波山の成り立ちは、一億年以上も古い時代に海底に積もった地層に斑れい岩、花崗岩のマグマが相次いで貫入し、その後の地殻活動により持ち上げられ山塊となってから風雨による浸食や風化によって堆積物が削り取られ、硬い斑れい岩を頂上部に花崗岩を基部にした現在の山体になったそうです。

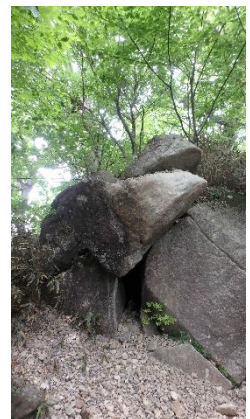
女体山山頂からつつじヶ丘へ下る途中にはいたるところに奇岩・怪石（きがん・かいせき）が多くあり、筑波山パワースポットとして案内板を設置し紹介していました。13時50分 つつじヶ丘着、14時5分 酒井さんとお別れ、乗車のバスを見送る。酒井さん見送り後筑波山発、一路帰路の車中となる。バスの車中で「今回のレポートは筑波山を登山した横田さん、澤田さんにお願ひする。」とのありがたいお言葉を鈴木先生からいただく。19時無事松本駅着。

今回、酒井さんの案内で袋田の滝、筑波山の旅をすることができました。色々な逸話を聞くことができ楽しかったです。ただ筑波山を往復登山したため、山頂での時間が少なく筑波山の話が多く聞けなかったことが残念でした。またの機会にお伺いしたいと思います。本当にありがとうございました。

以上整いませんが報告とさせていただきます。



◀弁慶七戻り岩
頭上の岩が今にも落ちそうで恐れおののいた弁慶が『七戻り』したといわれる岩



▶ガマ石
ガマの油の口上を考案した永井平助がこの岩の前で口上の文句を考えたといわれる。

第 63 回現地研修会

『酒井さんと歩く筑波山、そして袋田の滝』報告 その 2

横田 耕太郎



第 63 回現地研修会は酒井さんと「歩く」筑波山、「登る」でないところがポイントです。

日本百名山の筑波山は 877m の女体山と 871m の男体山からなり、百名山で最も低い山ですが関東平野にそびえる双峰は、標高以上に高さを感じる山です。

さて、初日は筑波山のある茨城県までの移動。久しぶりのサロンカー仕様のバスの車内は明るい声が響きます。途中、水戸市内の薫風梅み月で会席の昼食をいただいた後、バスは今夜の宿泊場所でもある袋田温泉へひたすら北へと進みます。途中、常陸太田にある竜神大吊橋を見学。奥久慈県立自然公園にある竜神峡、その渓谷を流れる竜神川をせき止めた竜神ダムの上に竜神大吊橋はあります。歩行者専用の橋としては日本最大級の長さでハイキングコースもあるようですが、「なぜ架けたのか」疑問の残る吊り橋ではありません。

見学後、さらに 30 分ほどバスで移動し袋田の滝に到着、駐

車場で茨城県在住の会員で日本山岳文化学会会長の酒井國光さんと合流しました。滝の流れが大岩壁を四段に落下することから、別名「^{よど}四度の滝」とも呼ばれる滝の流れは、雨が続き水量も多く迫力が感じられました。水量によってはハートの模様が見られるそうで、恋人の聖地にもなっています。

今夜の宿、袋田温泉・思い出浪漫館は滝から少し下った川沿いにあります。アルカリ性単純



泉の温泉が自慢だそうです。先日の大雨で溪流露天風呂は壊れてしまい入浴できませんでした。その代わりと言って夕食時に剛烈というお酒が 1 本ついてきました。

翌日はよいよ筑波山へ。あれっ？ 予定では 8 時出発とありましたが、8 時半に出発。それもそのはず、歩いて登る人は澤田さんと自分のふたりだけ。あとの 9 人はケーブルカーとロープウェイなんですよ。急がないわけです。筑波山までは約 2 時間、松本への戻りがあるので筑波山の滞在時間は 3 時間と限

られています。少しでも早く出発したいのになあ。

スタートの筑波山神社には 11 時前に到着。手水舎銅板葺替記念の崇敬者名に酒井さんの名前があるのを紹介してもらったりして本殿にお参りした後、ケーブルカー組と分かれて登山開始。関東に住んでいましたが筑波山は登った事がなくタイムが読めません。御幸ヶ原までのコースタイムは 100 分前後とあるので、1 時間を目標にしました。標高差は 500m ほどあるので少し厳しいですが、頑張るしかありません。

緑に覆われた登山道は階段が整備されていて比較的歩きやすいで



す。途中、上下のケーブルカーがすれ違う場所が見えるのですが、タッチの差で逃してしまい、残念。途中、男女川源流の湧水があり、神聖な雰囲気漂う場所の急登を登りきり、目標より 10 分早く御幸ヶ原に到着。まずは男体山



に登ろうとそのまま向かうと、下山してきたケーブルカー組とすれ違いました。「一番奥の茶屋で待ってるよ」の声を聞いて男体山頂上へ。霞んでいてわからなかったが、天気良ければ都心の方まで見えるそうだ。



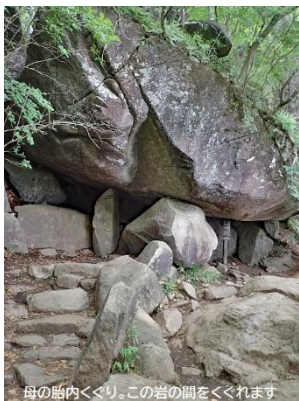
下山すると後から来た澤田さんに出会い、奥の茶屋にいる事を伝え、仲間の待つ仲の茶屋へ行くと、当然ながらすでに一杯やっていた。昨日からたくさん食べていた事もあり自分のかき氷を食べました。みなさんのビールとおつまみもちょこっとね。



さて、のんびりしている時間はありません。女体山を越えてバスの待つつつじヶ丘までのコースタイムは 1 時間半ほどです。子供たちでにぎわう山頂付近を後にして茶屋を出発。

女体山までの山頂連絡路にはセキレイ石やガマ石と名前のついた石もあります。

山頂からの眺めは先ほど歩いてきた男体山も見えたり眺望はなかなか良いです。のんびりもしてられないので写真を撮ったら下山開始です。すれ違う人に聞くとこちらの方が距離も短いようですが、途中の弁慶茶屋跡までは岩だらけで結構急登。その先も奇岩や怪石が多くあり結構楽しめるコースでした。植生も変化に富んでいて、特に後半は巨木や野鳥の声を聞きながら楽しく歩きました。やがて視界が開け遠く霞ヶ浦、眼下につつじヶ丘の駐車場が見えた時はホッとしました。つつじヶ丘高原には方位盤があり、視界が良ければ都心の高



層ビル群や富士山も見えるようだ。

そして駐車場に指定された 14 時の 10 分前に到着。ここからシャトルバスで帰る酒井さんを見送った後、松本へ向けて帰路につきました。天気は帰路の途中から雨にあたったものの、天気に恵まれ楽しい山行となりました。でも、個人的にはもう少しゆっくり筑波山を歩きたかったです。

そして駐車場に指定された 14 時の 10 分前に到着。ここからシャトルバスで帰る酒井さんを見送った後、松本へ向けて帰路につきました。天気は帰路の途中から雨にあたったものの、天気に恵まれ楽しい山行となりました。でも、個人的にはもう少しゆっくり筑波山を歩きたかったです。



第28回上高地談話会（涸沢）報告

小林 久雄

梅雨の末期とは思われぬ晴天に恵まれ、第28回上高地談話会（第10回涸沢談話会）は21名の参加で盛況に行われました。



何年か前は大雨に遭い開催が大変なこともありましたが、今年はコロナ禍も少し静まり愉しく出来ました。

今年は県救助隊長の岸本俊朗さんより『長野県内の山岳遭難の現状』をテーマに、スライドやムービーを交えて1時間20分を越えるお話を伺いました。

遭難事故の年代の推移や、里山と言われる身近な山域の事故のお話があり、特に最近の道迷いの事例として槍沢の三カ所の解説は興味深い内容でした。また『如何にして事故の予測をするか？』として、リスクの回避に必要な点を分かりやすくお話いただきました。



さらに最近のヘリコプターでの救出事例や、ネット環境での困り事の事例も、笑いを交えて伺いました。

高齢者が多い状況にある我が会では、安全登山を常に考えての行動を全員で誓い合いました。

さて夕の宴ですが、今回は県警救助隊の男女2名ずつも隊長に同行頂き、美味しく愉しく一夜を過ごせ満月の初夏を満喫出来ました。

思わぬ残雪の多さと夏山を思わす天候と涸沢カールの素敵な二日間に感謝し、思い出の日になりました。



明神の養魚池 春のメンテナンス無事に終了しました。

—明神養魚池メンテナンス（23.6.10）報告—

小林 久雄

6月に入り8日には信州も梅雨入りしました。台風の影響で梅雨前線の動きが心配な中でしたが、10日の土曜日は奇跡的に晴れて絶好のお仕事日和になりました。

いつものメンバーで少し早目に出掛けて10時半には池の水抜きを開始。梅雨前線の強い風のせいか枝がたくさん池に入っていました。それでも、2時間で二つの養魚池を何とか綺麗にし、お昼休憩。その後2時間ほど頑張っって何とか無事にメンテナンス終了しました。

何と言っても雨が降らずに仕事も順調でしたが、池の草刈りまでは鎌が無くて少し苦労しました。矢張り道具は必要ですね。



信州大学山岳友の会会報 第48号

発行日：2023年8月7日 発行：信州大学山岳友の会

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 信州大学山岳友の会事務局

TEL：0263-37-3332 FAX：0263-37-2438 E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp